

# 美ら海水族館 海のふ・し・ぎ 発見シート

## 中級編

### 解 説

#### 問 1 . 正解 (イラスト参照)

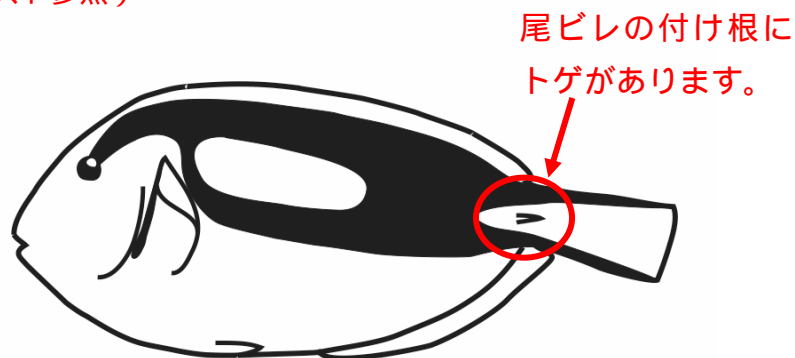


解説：丸いつつのような体形をしているナマコ。どこに口があるのでしょうか。「イノーの生き物たち」水槽のニセクロナマコをよく観察すると、体の片端に触手しよくしゆと呼ばれる器官が付いているのが分かります。この触手のある方が口。ナマコは口の周りにある何本もの触手で砂を口に運び入れ、砂に含まれる有機物を食べています。消化されない砂は口の反対側にあるおしりの穴（肛門）から排出されます。

#### 問 2 . 正解 B (動物)

解説：「サンゴの海」水槽に展示されている色々な形をしたサンゴ。動かないサンゴはまるで植物のように見えますが、イソギンチャクやクラゲの仲間に近い動物です（「初級編」解説問 2 参照）。

#### 問 3 . 正解 (イラスト参照)



- 1 印刷してご利用の際は、必ず「沖縄美ら海水族館」のロゴマークが入るように印刷して下さい。
- 2 問題及び解説内容を無断で変更しないで下さい。

解説：青色と黄色のコントラストが美しいナンヨウハギはニザダイ科の魚です。ニザダイ科の魚は尾ビレの付け根に1～数個のトゲを持っています。ナンヨウハギの場合、尾ビレの両側の付け根にたたみ込むことのできる1本のトゲを持っています。トゲは鋭く、不用意につかんだりするとケガをすることがあります。

#### 問4 . 正解 A・D (チンアナゴ・ニシキアナゴ)

解説：チンアナゴの仲間は潮通しのよい砂底に生息しています。砂の中から上半身を出して潮の流れの方に頭を向け、流れてくる小動物を食べます。日本に生息するチンアナゴの仲間5種のうち、「サンゴ礁への旅」個水槽に展示されているのは「チンアナゴ」と「ニシキアナゴ」。チンアナゴは白地に黒色の“てんてん”模様、ニシキアナゴは白と黄色の“しましま”模様です。

#### 問5 . 正解 C (コバンザメ)

解説：「黒潮の海」水槽には、大きな魚にピタッとくっつくのが得意な魚「コバンザメ」がいます。サメという名前が付いていますがサメの仲間ではなく、<sup>こうこつぎよ</sup>硬骨魚（「サメ博士の部屋」解説問2参照）の仲間です。頭の上に背ビレが変形した<sup>きゅうばん</sup>吸盤があり、大きな魚やウミガメにくっついて生活をします。大型生物にくっつくことで、敵から身を守ること及び移動や<sup>せつじ</sup>摂餌などに関して利益を得ています。

ジシャクザメ、キュウバンザメという種類の魚はいません。

#### 問6 . 正解 B (ダイオウイカ)

##### 正解 A (マッコウクジラ)

解説：「深海への旅」水槽展示エリアの手前には、大きなイカの標本が設置されています。深海に生息するこのイカの名前は「ダイオウイカ」。標本は1994年に沖縄県で捕獲されたもので、腕を含めた全長は6m37cm。大きなものでは全長20mにもなると言われており、1匹の大きさとしては無脊椎動物の中で最大の生物です。この大きなイカを食べるのが、全長15mにもなる「マッコウクジラ」です。

「ジンベエザメ」・「オニイトマキエイ」：体は大きいのですが、小さなエビや小魚など小動物を食べています。

- 1 印刷してご利用の際は、必ず「沖縄美ら海水族館」のロゴマークが入るように印刷して下さい。
- 2 問題及び解説内容を無断で変更しないで下さい。